



特別栽培米

環境こだわり農産物

2020年 栽培日記

JA滋賀蒲生町



Vol.4 ハウス 管理編

〔撮影日：2020年4月27日〕 5月になってもまだ肌寒いなど感じる時があり、例年よりも涼しい気候の中、育苗作業は順調に進んでいます。ハウスめぐりが終わった苗箱は職員が天候を見ながら温度と水をしっかり管理します。



ハウス側面の窓を開けて換気します。

稲苗には高温や水不足は大敵で、必要以上に高温や水不足が続くと「苗焼け」の原因となります。そうならないようにするために、温度と水の管理が必要なんです！

稲苗が快適な環境で生育できるように、日中のハウス内温度を **20℃～25℃** に保つようにハウスの窓を開閉し換気をして温度調節をします。**30℃** を超えると「苗焼け」する可能性があります。また、ハウス内が **5℃以下** になると低温で稲苗の成長の妨げになるので、夜間の管理も必要です。

ハウス内の温度管理と同じく水の管理も大変重要です。水不足になると苗の葉が針のようになってしまいます。また、やり過ぎると苗が*徒長して倒伏の原因となります。基本的に1日2回朝昼にハウス内のスプリンクラーを作動して水やりをしています。

このように、天候や気温の変化に合わせて育苗に適した温度や水の調整をし、生産者の皆さまに稲苗をお渡しするまで大切に育苗しています。

*徒長とは・・・植物が間延びした状態に育ってしまうこと。
ヒョロヒョロと細長く、普通の苗よりも虚弱で枯れやすい。

スプリンクラーで散水中



生育中の稲苗

